

巻 頭 言



奈良県知事 荒井 正吾

古代から現代、そして未来へ受け継ぐ 「はじまりの地・奈良」の国際交流

奈良は日本の誕生の地であり、日本は6世紀から8世紀、奈良に政権があって天皇陛下がおられた時代に、近隣国との盛んな交流により形作られました。朝鮮半島、中国大陸にある近隣諸国から先進的な文明、文化を受け入れることができ、それらが国の礎となったという歴史があります。奈良の私どもは、その歴史に感謝し、忘れてはならないと思っています。

奈良には古代国際交流の証としての仏像文化財が存在します。最近では、海外の方にも仏像の美しさ、迫力などの魅力を知っていただくため、いくつかの彫像を、パリのギメ東洋美術館やイギリスの大英博物館で展示し大変好評でした。今後も奈良の文化を世界に発信することにより、海外の方にも奈良の魅力を知っていただけるものと考えています。

また、2010年の平城遷都1300年を契機に東アジア地方政府会合を設立しました。日本、中国、韓国、ベトナム、インドネシアなど各国地方政府に共通する行政課題について、真摯な議論を通して、行政能力の向上を図るとともに、相互理解や交流を深め、平和で安定した東アジアの発展に貢献することを目的として、毎年度開催し、2019年度に10周年の節目を迎えることができました。来年度の第11回会合がインドネシア・西ジャワ州で開催されるなど、国内外から高い評価を得ています。今後も継続的に開催することにより、この会合が、国を越えた相互交流のプラットフォーム、参加者の皆様の関係づくりの場となることを期待しています。

奈良県では、2011年から中国陝西省、韓国忠清南道と、2014年からベトナムフートー省と、2015年からスイスベルン州と友好交流を推進し、これまで学生交流やスポーツ交流など次世代を担う若者たちの交流だけではなく、文化財保存技術や林業技術、高齢者・介護施策に関する交流など専門的な交流も行い、有意義な国際交流の実績を重ねています。加えて、2019年度には中国の清華大学との包括交流に関する覚書の締結も実現し、今後、地方政府に限らず海外の大学などとも連携を図り、様々な分野での国際交流を展開していきたいと考えています。

2020年4月に2,000人程度が収容できる奈良県内最大の会議場・観光交流拠点「奈良県コンベンションセンター」がオープンします。国内外の方々に、奈良を訪れていただき、日本の「はじまりの地・奈良」の奥深い魅力を体感していただけることを期待しています。